

○ 本校の概要

◎ 学校教育目標 ～夢をもって 未来をきり拓く 中萩中の子ども～
 ・よく考える子…朝学習(読書タイム、漢字タイム、算数タイム)・スピーチ大会・問題解決学習の推進
 ・思いやりのある子…正しい言葉遣い、あいさつの指導、縦割り班活動、地域ボランティア活動への参加
 ・たくましい子…基本的な生活習慣(運動・睡眠・食事・排便等)の確立、体力向上(マラソン週間、マラソン大会、駅伝大会、長縄集会等)
 校内研究主題: 支え合いの学習を通して、わかる・できる体育指導の工夫(領域: 器械運動(マット))
 特色ある教育活動…地域との交流①商店街主催の阿波踊り大会への参加②特別養護老人ホームでの福祉体験、高齢者への配車サービス体験

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学 ぶ意欲を高め、確かな学 力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 「先生の話をよく聞く」「授業に必要な道具を忘れずに持ってくる」など落ち着いた学習環境を作っている。	4: 国語、算数のワークシート(国: 読むこと、算: 知識理解)の正答率が8割取れる子どもの割合が9割以上。 3: 国語、算数のワークシート(国: 読むこと、算: 知識理解)の正答率が8割取れる子どもの割合が8割以上。 2: 国語、算数のワークシート(国: 読むこと、算: 知識理解)の正答率が8割取れる子どもの割合が7割以上。 1: 国語、算数のワークシート(国: 読むこと、算: 知識理解)の正答率が6割取れる子どもの割合が6割以上。	3	算数ステップアップ学習チェックシートを毎学期保護者にも見せ、苦手な単元については、長期休みの際にフォローアッププリントを取り組ませる。 大田区学習効果測定診断カルテをもとに、個人面談で保護者にも見せ、家庭教育に生かす。 週に1回ずつ朝の時間に設けている、漢字タイム、算数タイムにおいて、プリントやドリル演習に取り組み、基礎・基本の定着を図る。 定着が乏しい児童には、放課後、土曜日の算数補習教室への参加を促す。	教育目標 1. よく考える子 2. 思いやりのある子 3. たくましい子 目標努力方法等が先生方のご指導の成果です。
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4: 児童アンケートで「学校のきまりを守る」に肯定的な回答をした児童の割合9割以上。かつ、保護者アンケートで「学校のきまりを守っている」と答えた保護者の割合が9割以上。 3: 児童アンケートで「学校のきまりを守る」に肯定的な回答をした児童の割合8割以上。かつ、保護者アンケートで「学校のきまりを守っている」と答えた保護者の割合が9割以上。 2: 児童アンケートで「学校のきまりを守る」に肯定的な回答をした児童の割合7割以上。かつ、保護者アンケートで「学校のきまりを守っている」と答えた保護者の割合が9割以上。 1: 児童アンケートで「学校のきまりを守る」に肯定的な回答をした児童の割合6割以上。かつ、保護者アンケートで「学校のきまりを守っている」と答えた保護者の割合が9割以上。	3	児童アンケートにおいては、「学校のきまりを守る」の項目に89%が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。確かに大きく逸脱した行動は見受けられないが、廊下の歩行などは教員側の反省において、遵守が不十分であるとの意見が多くなっている。実際、教員が廊下を走っている児童を制止しても、聞く耳をもたなかったり、一時だけであったり、改善できていない。次年度は、掲示物を吊るすなどの新たな取り組みも必要との意見も出ていて、検討中である。 道徳教育の充実にあたっては、メンタルヘルスチェックを活用し、スクールカウンセラーとも連携を図り、今後も一人ひとりの児童の健全な育成をめざして、いじめの未然防止、早期発見、問題行動の把握と指導に努め、全校体制で児童の豊かな人間性を育む。	コメント無し
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4: 児童アンケート「進んで体を動かしている」と肯定的な回答をした児童の割合8割以上。長座体前屈と立ち幅跳びの記録が6月の記録よりも伸びた児童の割合9割以上。 3: 児童アンケート「進んで体を動かしている」と肯定的な回答をした児童の割合8割以上。長座体前屈と立ち幅跳びの記録が6月の記録よりも伸びた児童の割合8割以上。 2: 児童アンケート「進んで体を動かしている」と肯定的な回答をした児童の割合7割以上。長座体前屈と立ち幅跳びの記録が6月の記録よりも伸びた児童の割合7割以上。 1: 児童アンケート「進んで体を動かしている」と肯定的な回答をした児童の割合6割以上。長座体前屈と立ち幅跳びの記録が6月の記録よりも伸びた児童の割合6割以上。	2	・体育朝会では、体づくり運動、持久走、長縄、短縄に取り組んだ。また、休み時間の外遊びを奨励することで、児童は進んで体を動かすようになってきている。 一方で、長座体前屈と立ち幅跳びの伸びた児童は7割にとどまった。今後は、低学年から高学年までの系統立てた指導を目指していく。(長座体前屈は全学年ほぼ区、都、全国の平均値に近い結果が出ている。また、立ち幅跳びは男子は2つの学年を除いて区、都、全国の平均値に近く、女子は全学年、区、都、全国の平均値に近い記録が出ている。)	・子供一人一人に対して大変だと思います。
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 各研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4: 児童・保護者アンケートともに「先生はわかりやすく勉強を教えている」に肯定的な回答をしたそれぞれの割合が9割以上。 3: 児童・保護者アンケートともに「先生はわかりやすく勉強を教えている」に肯定的な回答をしたそれぞれの割合が8割以上。 2: 児童・保護者アンケートともに「先生はわかりやすく勉強を教えている」に肯定的な回答をしたそれぞれの割合が7割以上。 1: 児童・保護者アンケートともに「先生はわかりやすく勉強を教えている」に肯定的な回答をしたそれぞれの割合が6割以上。	3	・保護者・児童アンケートでは8割以上の保護者・児童が肯定的な回答をした(保護者アンケートは)。特に、タブレットや電子黒板等のICT機器を使った授業が毎日のように行われ、児童の実態や興味関心に合わせて授業を行っている。今後もさらに学習環境を整える努力を行う。 ・OJTの取組として若手研修や授業研修を行ってきた。これからも、引き続き、研修を行い、授業力向上に取り組む。 ・校内で授業を見て学び授業改善しようとする教員が多い。月1回の互いに授業を見せ合い、授業力向上を行う。	・改善する先生方の努力が大切です。頑張りましょう。
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくり出します。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 保護者と連携し、学年×10分の家庭学習を推進する。	4: 家庭学習の習慣ができていない児童の割合が9割以上。 3: 家庭学習の習慣ができていない児童の割合が8割以上。 2: 家庭学習の習慣ができていない児童の割合が7割以上。 1: 家庭学習の習慣ができていない児童の割合が6割以上。	2	・児童の家庭学習については、児童自身では7割強の児童はできているようだが、約3割の児童は習慣化できていない。学校での宿題の内容や量を検討したうえで、家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図りたい。 ・どのような宿題が出ているか保護者に伝え、家庭での協力をいただく。 ・家庭学習の仕方を保護者に説明し、保護者の協力を得られるようにする。	・評価が2といっても家庭学習が70%以上の人ができるので、低いとは思わないです。 ・地域のボランティア、ランドセル寄贈、薬物乱用防止教室等、ご協力をいただき感謝です。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可